

第11回支部代表者会議を開催 (6/16)

スト含む闘いで出向攻撃粉碎へ



87. 6. 18

No. 2579

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八 (動力車会館)
(鉄電)二九三五六・(公衆)〇四七二二二七二〇七



動労千葉は、六月十六日、第十一回支部代表者会議を開催し、組織財政基盤確立のために、事業部運動を強化・拡大し、さらに当局の一方的な出向攻撃にはストライキを含む闘いを配置して対決することを意志統一し、当面、六月二〇日の「動労千葉とたたかう国鉄労働者をばげまし連帯する6・20集会」へ総決起することを確認した。

「4・1」は破綻への第一歩

動労千葉をめぐる情勢が大きく動きだしている。「4・1体制」とも言うべき中に突入したわれわれは、この「分割・民営化」が近い将来に破綻するということをしつかりと確認しなければならぬ。その意味で「4・1」とは、まさしく「分割・民営化」破綻の第一歩なのだ。

矛盾噴き出す敵の側

当局は二月、三月の差別・選別攻撃に引き続き、四月、五月と攻撃を強めてきている。出向攻撃についても東日本においては、東京の三〇名を中心に盛岡、新潟、千葉を除いて強行されている。

しかし、敵の側にも矛盾が出てきている。ひとつは、初年度から「黒字」にしなければならぬということだ。一方で、労働組合を叩き潰そうとしなければならぬという、相反することを同時にやらなければならないために、いたるところで矛盾が噴き出している。同時にそれは、動労革マルー鉄道労連の中にも大きな危機を醸成している。鉄労から動労への「申し入れ」もその一つであり、松崎自身、鉄労との対立が「絶対的」であり「妥協はない」とまで言いきっている。

そもそも、不倶戴天の敵が結びついたものである以上、破産は明らかであり、この鉄道労連を利用してきた当局のやり方自体もうまくいくはずがないのだ。

闘う財政基盤確立へ

こういう状況は、ますます闘う労働組合を求めようになってくる。動労千葉の存在、そして、動労西日本の結成という事態が進んでいる中で「6・20集会」を圧倒的に成功させなければならぬ。

もうひとつは、財政基盤確立の取り組みが重要になってきているということだ。

四月以降、夏季物販・共同購入・カナメ商事を柱とした取り組みをはじめとして、着実に軌道

に乗ってきている。さらに強化・拡大しなければならない。

出向攻撃にはストライキを

さらに、近々にも千葉に出向攻撃がかけられてくることに對して、いかに対抗するかが動労千葉の今後の闘いを決めることになる。

この出向攻撃に対しては、ありとあらゆる手段・ストライキも含めた闘いを配置して対決しなければならぬ。

民間企業でさえ出向については「本人の意志を尊重する」ということが建て前になっているにもかかわらず、「新会社」の就業規則はそれを大きく逸脱して一方的にやってきている。

それと対決しなかったら組合運動が成りたなくなることも明らかだ。どんなことがあってもこれを阻止しなければならない。

この出向攻撃に対しては、委員会、あるいは、臨時大会を開催してスト権を確立して闘いに起こり上ることとする。

事業部運動を強化・拡大し、当面「動労千葉とたたかう国鉄労働者をばげまし連帯する6・20集会」へ総決起をかちとろう。

具体的に決定された課題

- ① 小集団活動への参加を拒否すること。
- ② 組合破壊のためのイデオロギーだ。賃金の銀行振り込みを拒否すること。
- ③ 賃金は必ず自分の手で受け取る。
- ④ ネクタイピンを全員で着用する。
- ⑤ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

当面するスケジュール

6/20 「動労千葉とたたかう国鉄労働者をばげまし連帯する6・20集会」

7/5 団結地引き綱大会
九十九里、一松海岸

12 第一回囲碁・将棋大会
動力車会館

夏季手帳出版 / 7月3日支部代表者会議 / 2・1ヶ月分